小・中学校再編にかかる地区意見交換会（八幡会場）

１ 日時　　令和８年１０月８日（木）　１９時～２０時２０分

２ 場所　　八幡小学校体育館

３ 参加者　　６２人

４ 事務局　　都留教育長、御手洗教育総務課長、吉田学校教育課長
　　教育総務課職員　４人、学校教育課職員　２人

５ 次第

（１）開会

（２）教育長あいさつ

（３）教育総務課長あいさつ

（４）佐伯市立小・中学校再編（案）について
- 今回の説明会の趣旨とこれまでの経過
- 小・中学生の現状と今後の見通し
- 学校の再編に関するアンケート調査結果について
- 学校再編することのメリット・デメリット
- 適正な学校規模の考え方
- 小・中学校再編（案）
- 中学校再編後の学校規模
- 小学校再編後の学校規模
- 小・中学校再編までのスケジュール案

資料を基に上記の項目等について説明

（５）質疑応答

（６）意見交換

（７）閉会

6 質疑応答・意見交換の内容

（1）質疑応答

※個人が特定されるおそれのある発言等については、個人情報保護の観点から、一部を編集・省略して掲載しています。

発言者	発言内容
参加者	中学校の開校予定について、令和 12 年度から対象学年はすべて新しい統合中学校に移る方針なのでしょうか。例えば、現在の中学 3 年生のように、最終学年を迎える生徒であっても、残りの 1 年間を受験期に新しい学校へ移ることになり、元の学校で卒業することはできないという認識でよろしいでしょうか。
事務局	現在の案では、開校年度に在籍しているすべての学年（1 年生・2 年生・3 年生）の生徒がそのまま統合先の学校へ移行する方針としております。
参加者	報道等を通じて学校再編の話を子どもたちも把握しており、地元の学校に通えないことに対してショックを受けている様子が見られます。スケジュール案の中には明記されていないようですが、当事者である子どもたちに対して教育委員会から直接説明を行う機会は設けられるのでしょうか。
事務局	まずは保護者の皆様や地域の方々へご説明を行い、ご意見を伺うことを優先して進めております。もちろん子どもたちに何の説明もないまま進めることはございませんので、適切なタイミングを見極めながら、子どもたちへ説明する場を設けてまいります。
参加者	全国の他自治体において、同様の学校統合を行った具体的な事例があれば教えていただきたいです。特に中学校の統合において、受験期の生徒がどのような影響を受けたのか、進路や生活面でどのような問題が発生したのか、あるいは大きな影響はなかったのかといった点について、全国規模での先行事例や課題を調査し、情報提供していただきたいです。また、具体的な事例を参考にしながら進めていただきたいと考えます。
事務局	大分県内におきましては、宇佐市、臼杵市、竹田市等で再編の動きや先行事

	例がございますが、旧市町村の枠を越えた大規模な統合事例は県内でも多くはございません。ご要望いただきました「全国規模での先行事例」につきましては、課題として持ち帰り、調査・検討した上で今後の説明や判断の材料とさせていただきます。
参加者	通学に関する安全や負担が一番の心配事です。説明資料には「スクールバス等による通学支援を行います」と記載されていますが、すでに具体的な通学案は出ているのでしょうか。中学校では下校時刻がバラバラになる懸念もあり、遠方へ通うことへの不安が大きいため、通学に関して決まっている方針や見通しがあれば早めに教えていただきたいです。
事務局	佐伯市の通学基準では、小学校は 3㎞ 以上、中学校は 6㎞ 以上でスクールバス等による通学支援の対象となります。今回の案における鶴谷中学校までの距離は基準（6㎞）前後の位置関係にあり、どのような通学方法をとるかについては今後、協議してまいります。
参加者	学校が統合された場合、放課後児童クラブはどうなるのでしょうか。方針が決まっていれば教えてください。
事務局	放課後児童クラブにつきましては、学校が統合されたからといって直ちに地元の児童クラブが廃止されるというルールはございません。利用ニーズや各施設の定員などを考慮しながら決定していくことになります。今後のあり方について担当課であるこども福祉課と協議を進めてまいります。
参加者	大分県全体で見て、佐伯市の学校再編の取組は進んでいるのでしょうか、それとも遅れているのでしょうか。他自治体と比較して佐伯市がどのような状況にあるのか分かりにくいため、ご説明をお願いします。
事務局	県内他市との比較では、面積や旧町村の合併の経緯が類似している日田市や豊後大野市、中津市などが挙げられます。これらの自治体でも小・中学校の統合が進められておりますが、旧町村単位で最低 1 校を維持している地域も多く見られます。
参加者	① 今回の再編案の決定時期はいつ頃を想定しているのでしょうか。 ② 学校が統合されて子どもたちが減少した場合、地域活動や伝統行事が衰

	退していくことが懸念されますが、今後の地域活動に関して、地域とどのように協力・連携していくお考えでしょうか。
事務局	① 再編方針のスケジュールにつきましては、今回の地区意見交換会等でいただいたご意見を踏まえて検討協議会に諮り、今年度中（令和 8 年度中）の策定を目指しておりますが、議論の推移によっては延長等もあり得ます。 ② 地域活動につきましては、学校が統合されても子どもたちが暮らす地域は残ります。蒲江翔南小・中学校では統合後も児童・生徒が地元に戻って地域行事に参加する「里帰り学習」などの取組が行われています。また、八幡・西上浦地区で展開されているコミュニティ協議会とコミュニティ・スクールを密接に連携させ、学校と地域のつながりや伝統行事が途絶えないよう取り組んでまいります。
参加者	アンケート調査結果（資料 5 ページ）において、「再編・統合に賛成」と「もはや止むを得ない」の合算を「再編肯定（賛成寄り）」として整理されていますが、「もはや止むを得ない」という回答を肯定として捉えることには違和感があります。「どちらかといえば賛成」「どちらかといえば反対」といった選択肢にしたほうがよかったのではないでしょうか。「もはや止むを得ない」という選択肢にした理由を教えてください。
事務局	過去にアンケート調査を実施した際にも同様の選択肢で集計を行っており、他の説明会でも同様のご指摘をいただいております。「どちらかといえば賛成／反対」といった、より段階的な設問にすべきであったと受け止めております。
参加者	統合先の学校について、八幡小・彦陽中からは佐伯小・鶴谷中へ統合することが前提の案になっていますが、保護者の勤務地や生活実態等に応じて渡町台小学校など他の近隣校を自由に選択できるようにすべきではないでしょうか。また、統合を前提とするだけでなく、通学区域にとらわれず自由に学校を選択できる制度（学校選択制）の導入についても柔軟に検討していただきたいです。
事務局	現在でも一定の事情がある場合には校区外通学の許可要綱に基づき個別に対応しておりますが、学校再編に際しては、こうした通学要綱自体の見直しや要件の緩和が必要になることも想定されます。

	一方、完全な学校選択制の導入につきましては、過去に市民アンケートを実施した際、「選ばれなかった学校の児童・生徒の減少が加速し、早期の廃校につながる」といった懸念から反対意見が多数を占めた経緯がございます。義務教育の基本方針として校区と地域とのつながりを重視する観点も踏まえ、慎重に検討してまいります。

（2）意見交換

※個人が特定されるおそれのある発言等については、個人情報保護の観点から、一部を編集・省略して掲載しています。

発言者	**発言内容**
参加者	子どもが自分の力で自宅から歩いて登校することは、非常に大切だと考えております。特に小学生の遠方への通学は負担が大きく、できれば歩いて行ける距離で生活していけるのがいいなという思いがあります。 また、学校再編は住宅の新築や購入など、将来設計に影響します。直前に計画を知って「こんなはずではなかった」と後悔する家庭が出ないよう、十分な猶予期間を設けていただくことは可能でしょうか。例えば、10～15 年先を見据えた将来の見通しを早期に周知していただきたいです。学校を選ぶ自由もあるように、住む場所を選ぶ自由もあると思うので、そういったところまで考えてもらいたいです。 あわせて、部活動の地域展開が進む中、家庭環境や送迎の可否によって子どものスポーツ・体験機会に差が生じるのではないかと懸念しております。今回の学校統合と部活動の地域展開がどのように関わり合うのか教えてください。
事務局	中学校部活動の地域移行につきましては、今年度より休日の部活動を地域のスポーツ・文化活動へ移行しており、学校部活動自体は平日の活動を中心としております。休日の地域クラブ活動につきましては、地域で運営を担ってくださる団体がある限り、学校の再編による直接的な影響や変化は基本的には生じないと考えております。ただし、統合によって学校規模が大きくなることで、平日に校内で行える部活動の種目数や活動環境が充実・変化する可能性は考えられます。

参加者	佐伯市が掲げる「いつもこどもがまんなか」という基本理念に立ち返り、学校再編の当事者である子どもたち自身の声や思い、アイデアを直接聞き、再編計画に反映させていただきたいです。
参加者	今回の統合案には反対です。事前アンケートの段階では、八幡地区であれば地理的にも近い東雲との統合になるのかなと考えておりました。児童・生徒数が減少している中での統合自体はやむを得ない面もあると受け止めておりましたが、いきなり鶴谷中や佐伯小へ統合する案には不安があり、メリットよりもデメリットの方が大きいと感じております。現在の少人数環境だからこそ、クラス全員の仲が非常に良く、また小さな問題や変化であっても教員の目が一人ひとりに行き届き、丁寧に対応して保護者にも共有していただける良さがあります。基準として示されている「1 学級 20 人以上」に満たない学級があっても構わないのではないでしょうか。東雲との統合くらいでしたら、個人的にはいいかなとは思っています。
参加者	今回の案は市街地中心部への統合という点で大なたを振りすぎていると感じます。資料を見ますと、彦陽中学校と東雲中学校を合わせても約 50 名前後となり、現在の彦陽中の規模感と大きく変わりません。このような周辺校同士のまとまりも選択肢として考えられるのではないでしょうか。 また、市から「地域コミュニティ協議会を盛り上げよ」と要請され地域活動に尽力している最中に、学校をなくすという提案がなされるのは施策として矛盾していると感じます。
参加者	通学路の安全性について強い不安を感じております。特に駅前周辺などは高校生や一般の自転車・自動車の往来が多く、中学生が多数自転車通学することになれば事故の危険性が高まります。市として現地の通学路の状況把握と具体的な安全対策を事前にしっかりと講じていただきたいです。
参加者	学校再編に伴い、今後の説明会においては、教育総務課や学校教育課だけでなく、社会教育課や体育保健課など関係部署の責任者も同席させ、その場で的確な回答や助言ができる体制を整えていただきたいです。
参加者	坂の浦トンネルなど危険な国道を子どもたちに通学させることには大きな不安があり、道路整備にも長い年月を要します。何か事故等があってからでは遅いと思います。 親同士での意見は非常に重要です。まずは一度、学校や PTA で親の意見をま

	とめた上で、そのお話を市の方に聞いていただきたいです。
事務所	学校や PTA で保護者のご意見をまとめた上で市と対話したいというご提案は検討協議会にも諮りながら対話の機会や日程調整等について協議してまいります。また、危険箇所の通学については自転車に限らずバス運行も含めて柔軟に検討してまいります。